

4月の施行を視野に 液状化判定サービス 兼松日産・グランドートユニオン

兼松日産農林(東京都千代田区、高崎實社長)が運営する地盤改良技術

サービス提供組織・グランドートユニオンは1月から、新開発の住宅地盤設計支援システム「e-soilⅡ」を活用した液状化調査・判定サービスの運用を始めた。インターネットの接続環境があれば利用可能なe-soilⅡの活用により、ユニオンの会員はユーザーに対し一貫性のある品質で液状化判定結果を提示できるようになった。4月1日に施行される住宅性能評価制度の改正で、評価書に液状化関連情報を記載する特記事項

欄が新設されるため、エンドユーザー向けの液状化情報提供ニーズが高まると予想しての施策。兼松日産農林では「エンドユーザーの間では液状化関連情報へのニーズが高い。性能評価書への記載は他社との差別化に役立つ」とし、サービスのPRを強める。e-soilⅡを活用した液状化調査・判定の手法は、スウェーデン式サウンディング試験の際に、液状化判定に必要な土質成分や地下水の水位高なども併せて調べ把握

したデータをシステムに入力することで、全国一律で客観的な結果を得ることができると特徴としている。住宅事業者による同サービスの利用窓口は、同ユニオン事務局(兼松日産農林内・TEL03-5275-2070)もしくは会員会社のいずれかで、利用料金の目安は、一般的なスウェーデン式サウンディング試験による費用プラス数万円。北海道と沖縄を除く全国で対応している。